

2013年12月25日

海外研修報告書

鰐淵 秀一（北米）

この度、地域文化研究専攻の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の支援を受け、2013年12月15日から12月20日までの6日間にわたってアメリカ合衆国ニューヨーク及びフィラデルフィアにて植民地時代フィラデルフィアの都市形成に関する史料調査を行った。その成果をここに報告したい。

最初の訪問地であるニューヨークでは、New York Public Library において18世紀の北米都市において制作された地図及び都市景観図の調査を行った。ここではフィラデルフィアの地図製作者 Lewis Evans の *A General Map of the Middle British Colonies in America* (1755年) のみならず、ニューヨークおよびボストンで活動した William Burgis の製作したボストン都市景観図 (1725年?) を精査することが出来た。この都市景観図は The Library Company of Philadelphia 所蔵の Peter Cooper のフィラデルフィア眺望図 (1720年) と並び、現アメリカ合衆国最古の都市景観図として高い史料価値を持ち、植民地都市の景観を論ずる際に無視することはできないものである。

翌日16日にフィラデルフィアに移動し、1731年ベンジャミン・フランクリンらによって設立された会員制図書館である The Library Company of Philadelphia で当時の土地測量のマニュアル書等の閲覧を行い、ライブラリアンで書物史家としての研究業績も多い James Greene 氏と本研究に関するディスカッションを行った。この面談により、未確認の手稿史料や測量図についての情報のみならず、史料のコーパスから鑑みた今後の研究の方向性やコンタクトを取るべき研究者の名前についてのアドバイスを得ることができ、非常に有益なものとなった。ここで閲覧することのできた史料は17世紀中葉のアイルランドやペンシルヴァニアの測量において用いられた William Leybourn, *The Compleat Surveyor, concerning the Whole Art of Surveying of Land*, 2nd ed. (London, 1657) や18世紀を通じて測量マニュアルとして広く読まれた John Love, *Geodaesia: or, the Art of Surveying and Measuring Land Made Easy*, 9th ed. By Samuel Clark (London, 1771) 等である。

残りの日程は、Historical Society of Pennsylvania において植民地時代フィラデルフィアの土地測量及び地図作成に関する調査に当てられた。今回の滞在は一週間と短いものであったこともあり、調査は今後の長期調査に備えた予備的なものに留まったが、当時の野外記録ノートなどを含む William Parsons、Nicholas Scull、Christian Lehman の個人文書といった、植民地時代の測量士の活動を伝える史料を参照することができ、研究の可能性に確信を持つことができた。また、Nicholas Scull の測量に基づくフィラデルフィア及びその周辺図 (1752年) や1762年の都市図を閲覧するのみならず、当該地図の作製に当たって行われたと思われる測量データを彼の個人文書のなかに認められたことは今回の調査における発見のひとつであった。